

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月14日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401028

研究課題名（和文）解放前後、太湖流域農漁村の「郷土社会」とフィールドワーク

研究課題名（英文）“Rural Society of Taihu Lake Basin and Fieldwork in Modern China”

研究代表者

太田 出（OTA IZURU）

広島大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10314337

研究成果の概要（和文）：

本研究課題では、解放前後にあたる1930～1950年代の太湖流域農漁村の「郷土社会（土俗的な基層社会）」について、主にフィールドワークという手法を用いて、文献史料研究からさらに掘り下げた分析を行った。フィールドワークは4年間で計10回におよび、延べ人数200人以上の農漁民から聴き取りを実施した。期間中にはこれらの調査を踏まえた『太湖流域社会史口述記録集』2冊を刊行することができた。今後、研究成果の整理をさらに進めていくなかで1冊の『口述記録集』を出版する予定である。

研究成果の概要（英文）：

Using fieldwork and interview, we studied about the village life of the Taihu lake area in 1930-1950 China. Interview is not ordinary technique for historians, but we challenged daringly, because documents historical materials related to rural society is not enough to analysis. In this project, we investigated at ten times and interviewed with more than two hundred elderly inhabitants. Based on this results, we published two reports of the Taihu lake area. In the future, we want to publish one more book.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2009年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：近現代中国、江南デルタ、太湖流域、農村、漁村、フィールドワーク、基層社会

1. 研究開始当初の背景

平成16～18年度に実施した研究課題「清末民国期、江南デルタ市鎮社会の構造的変動と地方文献に関する基礎的研究」（基盤研究B）の成果を踏まえて、檔案館・図書館・地方志編纂室所蔵の地方文献（地方檔案、地方新聞、郷土史料）の読解を進めると同時に、

郷村統治関係者（書記、会計、婦女主任、保長、甲長、図正など）、土地改革・互助組関係者（農会幹部、分田小組組長、互助組組長など）、老農民（雇農、貧農、富農）、老漁民（船上生活者、漁業村幹部）、私塾教師、宣卷藝人、廟会組織人、村廟管理人などを対象とした聴取調査を継続しようとした。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、解放前後の太湖流域農漁村と、解放後共産党政権下で集団化の道を行ってきた太湖流域農漁村とを、共時的にはそれぞれ地方文献とヒアリングという異なった手法で描出・比較し、通時的には集団化の視点から検討することで、これまで主に文献史料を用いて政治・制度的な側面から議論されてきた、解放前から集団化までの太湖流域農漁村を、「郷土社会」レベルの実態に即しながら再検討することにある。

また歴史学の分野では十分に馴染んでいないヒアリングを敢えて主要な研究方法に据えることで、歴史学におけるヒアリングの意義、その有効性と限界とを考えてみたい。

3. 研究の方法

本研究課題の方法はフィールドワーク、特にヒアリング（口碑資料の収集）に重点を置くところに特色を有する。1940～1950年代の農漁村の実態を記憶しているインフォーマントはすでに僅少であり、そのまま放置すれば聴取調査は完全に不可能になる。とりわけ漁業関係者への聴取調査はこれまで全く存在しないため、漁業的社会主义改造（漁改）の過程をより早く、具体的に明らかにする必要がある。またこれらを成功させる方法として二、三の村落に焦点をあてて定点観測を進めていく。

4. 研究成果

4年間という研究期間の間に、計10回にもわたるフィールドワークを実施し、延べ人数200人以上の老農漁民から聴取調査を行うことができた。内容も極めて詳細かつ重要なものとなっている。

主な調査村は上海市青浦区、江蘇省呉江市、浙江省嘉興市・湖州市の諸村落で、解放後の土地改革、集団化、漁業的社会主义改造、集団化期の生活、農村の副業・工業化、民間文化の復興、基層社会の藝能、日本住血吸虫病と衛生などについてインタビューを実施した。

また、当研究課題の重要な試みの一つであるGPSによる測量は、様々な難問に遭遇しながらも、一部実行に移すことができた。

これらの成果を他の研究者とも共有するために、『中国農村の信仰と生活——太湖流域社会史口述記録集』『中国農村の民間藝能——太湖流域社会史口述記録集2』の2冊の口述記録集を出版した。また今年度中にもう1冊、『中国農村の土地と暮らし（仮題）——太湖流域社会史口述記録集3』を刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計27件）

- ① 太田出「清代中国の監獄社会と牢頭」（『史学研究』273、pp.1-25、2011年）、査読有
- ② 太田出「太湖流域漁民信仰雑考——楊姓神・上方山大老爺・太君神を中心に——」（『九州歴史科学』39、pp.1-20、2011年）、査読有
- ③ 山本英史「近代蘇州における基層社会の管理と郷村役」（山本英史編『近代中国の地域像』山川出版社、第七章、pp.239-283、2011年、所収）、査読無
- ④ 佐藤仁史「回顧される革命——ある老基層幹部のライフヒストリーと江南農村——」（山本英史編『近代中国の地域像』山川出版社、第十一章、pp.381-419、2011年、所収）、査読無
- ⑤ 吉田建一郎「清末民国期の農畜産物・加工品貿易史」（『近きに在りて』59、pp.9-15、2011年）、査読有
- ⑥ 吉田建一郎「向井龍造と満蒙殖産の骨粉製造、1909-31年」（富澤芳亜・久保亨・萩原充編著『近代中国を生きる日系企業』、大阪大学出版会、pp.223-244、2011年、所収）、査読無
- ⑦ 吉田建一郎「中華皮革廠——上海製革業のリーディングカンパニー、1920-1932年」（『史潮』、歴史学会、新70号、pp.23-37、2011年）、査読有
- ⑧ 吉田建一郎「第一次大戦前後の青島における獣骨と骨粉の輸出について」（山本英史編『近代中国の地域像』山川出版社、第二章、pp.61-86、2011年、所収）、査読無
- ⑨ 稲田清一「寧化県檔案館所蔵資料紹介」（『甲南大学紀要』文学編161、pp.261-275、2011年）、査読有
- ⑩ 佐藤仁史・太田出「中国近現代口述史における「語り」とオーラルヒストリー資料」（岩本通弥他編『オーラルヒストリーと〈語り〉のアーカイブ化に向けて』成城大学民俗学研究所、pp.69-82、2011年、所収）、査読無
- ⑪ 山本英史「江南基層社会からみた土地改革前史・序説——旧松江府の図正と帰戸併冊」（高橋伸夫編著『救国、動員、秩序——変革期中国の政治と社会』慶應義塾大学出版会、pp.279-304、2010年、所収）、査読無
- ⑫ 稲田清一「福建省寧化県「黄通の乱」関係史跡・史料調査記録」（『甲南大学紀要』文学編160、pp.281-291、2010年）、査読無

- 有
- ⑬ 佐藤仁史「フィールドワークと近現代江南農村——太湖流域社会史調査に即して——」(高田幸男・大澤肇編『新史料からみる中国現代史——口述・電子化・地方文献』東方書店、pp.7-29、2010年、所収)、査読無
- ⑭ 吉田建一郎「20世紀前期の上海における日系製革企業——江南製革と中華皮革——」(『史学』、三田史学会、79—1・2号、pp.33-53、2010年)、査読有
- ⑮ 太田出「太湖流域漁民の「香頭」と「社」「会」——華北農村調査との比較試論——」(『近きに在りて』55、pp.45-56、2009年)、査読有
- ⑯ 太田出「中国太湖流域漁民と内水面漁業——権利関係のあり方をめぐる試論——」(室田武編『グローバル時代のローカル・コモنز』ミネルヴァ書房、2009年、pp.195-214、所収)、査読無
- ⑰ 太田出「近世アジアにおける警察と監獄」(『歴史地理教育』741、pp.18-25、2009年)、査読無
- ⑱ 小島泰雄「生活空間の重層性から中国農村研究を考える」(『近きに在りて』55、pp.91-97、2009年)、査読有
- ⑲ 小島泰雄「中国農村の基層空間にとっての20世紀」(森時彦編『20世紀中国の社会システム』京都大学人文科学研究所、2009年、pp.343-359、所収)、査読無
- ⑳ 佐藤仁史「民国期江南の廟会組織と村落社会——吳江市における口述調査を中心に——」(『近きに在りて』55、pp.57-70、2009年)、査読有
- 21 吉田建一郎「19世紀末—1930年代初期の上海における製革業」(金丸裕一編『近代中国と企業・文化・国家』、ゆまに書房、pp.187-211、2009年、所収)、査読無
- 22 太田出・佐藤仁史「太湖流域社会史現地調査報告——外国史研究者とフィールドワーク——」(『近代中国研究彙報』30、pp.91-115、2008年)、査読有
- 23 太田出「明清時代「歌家」考——訴訟との関わりを中心に——」(『東洋史研究』67-1、pp.68-102、2008年)、査読有
- 24 太田出「清末民国期の太湖流域漁民——漂泊・漁撈生活と入漁慣行」(加藤雄三他編『東アジア内海世界の交流史』、人文書院、pp.217-236、2008年、所収)、査読無
- 25 太田出「水辺からみる中国のコモنز」(『Local Commons』、2008年10月号、pp.2-3)、査読無
- 26 太田出「(唐立宗著) 地方輿論の形成——明代広東惠州府と『定氛外史』」(『史学』、慶應義塾大学、77—1、pp.31-63、2008

- 年)、査読無
- 27 吉田建一郎・金丸裕一「『中支那経済年報』という謎——戦時中国に関する日本語史料の一側面」(『立命館経済学』、立命館大学経済学会、pp.392-407、57—3、2008年)、査読有

[学会発表] (計5件)

- ① 佐藤仁史・太田出「中国近現代口述史における「語り」とオーラルヒストリー資料」、国際シンポジウム「オーラルヒストリーと〈語り〉のアーカイブ化に向けて——文化人類学・社会学・歴史学との対話」、2011年9月20日、成城大学民俗学研究所グローバル研究センター
- ② 太田出「中国太湖流域漁民と内水面漁業の権利関係——費孝通の開弦弓村調査との比較から分析する——」、2011年10月30日、広島大学史学研究大会、広島大学
- ③ 太田出・佐藤仁史「寧波・浙江地域の“船上生活者”」、2009年10月24日、シンポジウム(科研費研究課題名「太湖流域農漁村の「郷土社会」とフィールドワーク」主催)、慶應義塾大学東アジア研究所
- ④ 太田出・佐藤仁史「水上居民と近現代浙江社会——九姓漁戸調査を中心に——」、2008年7月27日、シンポジウム(文部科学省特定領域研究・研究課題名「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成——寧波を中心とする学際的創生——」主催)、東京大学
- ⑤ 太田出「中国太湖流域漁民と内水面漁業——権利関係のあり方をめぐる試論——」、2008年6月29日、シンポジウム(特定領域研究「持続可能な発展の重層的環境ガバナンス」グローバル時代のローカル・コモنز班、主催)、京都大学

[図書] (計2件)

- ① 佐藤仁史・太田出他編『中国農村の民間信仰——太湖流域社会史口述記録集2』(汲古書院、2011年)448頁
- ② 佐藤仁史・太田出他編『中国農村の信仰と生活——太湖流域社会史口述記録集』(汲古書院、2008年)410頁

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

太田 出 (OTA IZURU)

広島大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10314337

(2) 研究分担者 なし

(3)連携研究者

山本 英史 (YAMAMOTO EISHI)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：90127796

稲田 清一 (INADA SEIICHI)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：60221777

陳 來幸 (CHIN RAIKOU)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号：00227357

小島 泰雄 (KOJIMA YASUO)
京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・
教授
研究者番号：80234764

佐藤 仁史 (SATO YOSHIFUMI)
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授
研究者番号：60335156

吉田 建一郎 (YOSHIDA TATEICHIROU)
大阪経済大学・経済学部・専任講師
研究者番号：60580826